

「第3回青少年ユニバーサルキャンプ」実施報告書



2018年9月29日(土)～30日(日)千葉県立手賀の丘少年自然の家にて、2018年度IYEOチャレンジ・ファンド助成事業「第3回青少年ユニバーサルキャンプ」(主催：青少年ユニバーサル実行委員会)を開催しました。参加者76名、実行委員12名、地域ボランティア6名、合計94名の大所帯でのキャンプとなりました。

「年齢・性別、国籍や経済格差、障害の有無に関わらず、自然体験を通じ、互いの違いを知り、一人一人の自己選択と意思決定を尊重し、尊厳を持つ対等な関係を築いていくきっかけ作りの場」ということをコンセプトとし、地域とのつながりや交流も重要視しながら参加対象を全国より満3歳以上ならだれでも参加できるキャンプとして募集を行いました。その結果、関東を中心とする様々な地域より、3歳から50歳代までの幅広い年齢層の方々や初めてキャンプに参加する方、昨年度のユニバーサルキャンプリピーターの方、車椅子や杖を使用する方、外国にルーツを持つ方等、個性豊かな参加者が多数集いました。

プログラムは、キャンプの目的である自然体験を基本軸に、地域ボランティアの協力のもと畑での収穫体験、野外炊事、キャンプファイヤー、プレイパークなど、「互いにできない部分を助け合う互助の精神と、各班毎の行動は自分が班のために何ができるか主体的に考え、行動する機会」を多く設け、交流を深めていきました。雨降る中での活動ではありましたが、畑までの坂道では3歳児が車椅子を押し、押しってもらう車椅子の参加者が押し

方を教えるなど、相手を思いやる気持ちと対等な関係を築いていく両者の過程が自然に見受けられました。また、野外炊事では皆笑顔で収穫した野菜を用いて何を作るか、班で相談・選択・決定しながら各自が自分のできる部分を担当、協力して調理していききました。様々なプログラムを通じ、それぞれの違いを知り、相互が認め合い、個性を尊重していく事は差別や偏見もなく、「みんな違って、みんないい」という共生社会そのものを考えるきっかけを、地域を通して知る重要な体験ができたのではないかと思います。

今後も共生社会を創る一つのきっかけとなる青少年ユニバーサルキャンプの開催を来年度も期待し、心に残る思い出深いキャンプになった事をご報告致します。

※第4回青少年ユニバーサルキャンプは2019年9月7日(土)～8日(日)開催予定

【プログラム概要】

9月29日(土)	9月30日(日)
8:30 JR 東京駅集合	6:30 起床・洗面・荷物移動
9:30 JR 北柏駅集合	7:20 美化活動(清掃)
10:00 現地集合・受付	7:45 野外炊事・朝食
10:30 オリエンテーション	9:30 プレイパーク(自主活動)
11:00 開会式	12:00 昼食(弁当) ～感想・アンケート記入～
11:30 昼食・チェックイン	13:15 閉会式・集合写真
13:00 農業体験(収穫体験)	14:00 現地解散・バス出発 (北柏・東京)
15:00 野外炊事・夕食 (カレー、シチュー、梨等)	
19:00 キャンプファイヤー	
20:30 入浴・就寝準備	
22:00 就寝	
※就寝後、リーダー会議及び実行委員会を実施	





【協力・協賛】

1. 農業生産法人ちやちやちやビレッジ：生産物と農地提供
農業生産法人は農業に携わりたい、始めたい人々が集まる場所として地元農家と設立。
2. 株式会社パソナハートフル：収穫サポート
障害のある方の農業の専門的な研修、就農を目指す雇用支援に取り組んでいます。

第3回青少年ユニバーサルキャンプに寄せて

青少年ユニバーサルキャンプに参加されたみなさん、こんにちは。

本事業は、日本青年国際交流機構と公益財団法人修養団のメンバーが中心となり、多文化共生や青少年育成に関心のある高校生を含めた多様な実行委員で構成されており、実行委員会もユニバーサルです。ユニバーサルキャンプは社会貢献活動の一環として実施されるものであり、今回で第3回目の開催となります。

開催にあたり、今年度のキャンプはどのようなワクワクをみなさんに抱いてもらえるか、企画の段階から様々なアイデアを実行委員会でも考えていきました。昨年参加して下さったリピーターの方々もおられたので、昨年より更なるワクワクを求めプログラムを検討していく中、地域の方々の協力が得られることとなり初めて野菜の収穫体験を実施することができました。自然の中で参加者同士だけでなく、収穫サポートから夕食・キャンプファイヤーの時間を地域の方々含め共に過ごせたことは、このキャンプを通じ地域との絆やつながりの大切さを改めて感じる時間となりました。1泊2日という時間はあっという間に過ぎていきます。慣れない環境の中、不安もあったかもしれません。自然の中で、普段できないことに挑戦してみる、行動してみる、手を差し伸べてみる等、小さな勇気の一步がみなさんの貴重な糧となり、今後の生活の中で活かされる事を期待しています。ありがとうございました。

第3回青少年ユニバーサルキャンプ実行委員長
中山 愛

【参加者・実行委員の声】

参加者（社会人）

普段、密にかかわることがない世代の方とお話しできて、一緒に活動できたことがよかった。一日目にできなかったことが二日目に達成できて、みんなの成長も感じられた。とにかくごはんが美味しい

参加者（中学生）

このキャンプを通してたくさんの人と出会い、いろいろなことを学ぶことができいい経験が出来ました。協力することも大切さや助け合う必要さも学べてとても良い2日間でした。

実行委員（社会人）

非日常体験の中でありのままの感情で出来たと思います。そしてたくさん学ばせて頂きました。ありがとうございました。

幼稚園児（女子）

みんなでのしくあそんだり、つくったり、かいたり、のんだり、たのしかった

参加者（社会人）

雨・風が強い中行われたキャンプだったが、他では体験できないことが多く、楽しかった。収穫したばかりの野菜の使い道を考えて料理をしたり、普段とは違う環境下で工夫しながら生活することで学ぶことが多かった。

小学生（男子）

おりょうりやしゅうかくたいけんができてよかった

参加者（社会人）

皆でご飯をたべ、皆で体を動かし、皆で火を見て、皆で笑って楽しかったです